

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

創立70周年記念式典・祝賀会開催される

令和6年2月24日(土)、埼玉県臨床検査技師会創立70周年記念式典がソニックシティ市民ホールで、その後祝賀会をパレスホテル大宮ローズの間にて180名を超える出席者が参加され盛大に開催されました。

記念式典は、司会の長澤英一郎・松寄朋子両常務理事が進行役となり、猪浦一人副会長の開会の辞から始まり、続いて神山清志会長より『70年もの長きにわたり先輩たちが築き継承されてきた技師会の歴史と今日

の発展を感謝し、多くの来賓の方々にご列席いただいたことは誠に光栄であること、また、改めて技師会として社会的責務を感じる』という趣旨の挨拶がありました。

来賓の祝辞では、大野元裕埼玉県知事より当技師会が埼玉県の医療・公衆衛生に多大な貢献をしてきたことへの感謝をつづった大変ありがたいお言葉をいただきました。また、日本医師会松本吉郎会長、日本臨床衛生検査技師会宮島喜文会長からは、当技師会への温かいお言葉と今後の発展を期待するお言葉をいただきました。その後、埼玉県医師会金井忠男会長からは、当技師会の役割と埼玉県医師会精度管理事業等の貢献について感謝のお言葉を、埼玉県看護協会澤登智子会長からも温かいご祝辞をいただきました。



神山清志 会長



大野元裕 埼玉県知事



日本医師会 松本吉郎会長



日本臨床衛生検査技師会 宮島喜文会長



埼玉県医師会 金井忠男会長



埼玉県看護協会 澤登智子会長

各受賞式では、技師会活動に貢献された賛助会員、医療施設、青年部委員会、個人部門として過去10年間の埼玉県医学検査学会実行委員長、ダイヤモンドプリンセス号の検疫検査に従事した臨床検査技師が表彰されました。

続いての記念講演では、当会学術顧問である自治医科大学 櫻林郁之介名誉教授より「臨床検査とともに歩んだ人生!!」という奥の深い内容の講演をいただき、特別講演では日本医師会松本吉郎会長より「日本医師会として臨床検査技師に臨むこと」というタイトルの講演をいただきました。

松岡優副会長より閉会の辞があり大変華やかで厳かな記念式典は執り行われました。

祝賀会は会場を移し、パレスホテル大宮ローズの間にて開催されました。司会の伊藤恵子理事・神嶋敏子理事が進行役となり、濱本常務理事の開会の辞、神山清志会長からご参加いただいたみなさまへの感謝の気持ちをこめた挨拶がありました。

ご来賓方々を代表し浦和医師会桐澤重彦会長、埼玉県診療放射線技師会富田博信会長、日本臨床衛生検査技師会 林和樹関甲信支部長ならびに五内川里子名誉会員からのご挨拶へ続き、その後出席いただいた来賓方々のご紹介がありました。

乾杯のご発声は埼玉県衛生研究所本多麻男所長より行なわれ、祝賀会が始まりました。親睦が深められたなごやかな雰囲気では流れ、最後に山口純也副会長の閉会の辞で創立70周年記念祝賀会は盛会のうちに終了となりました。



櫻林郁之介 学術顧問

(文責：網野育雄)

第52回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日 : 令和6年12月8日(日)

会 場 : ソニックシティ

テ ー マ : Challenge!

サブテーマ : ~ 多様化するニーズへの実践と進化 ~



第52回埼玉県医学検査学会
学術部長 小原 明

第52回埼玉県医学検査学会の学術部長を務めさせていただきます埼玉県済生会川口総合病院の小原明と申します。多様化するニーズへどのようにChallenge!していくか?会員の皆様の業務に少しでも生かせる内容の講演を企画して参りますので、ご期待ください。

それでは、令和6年5月1日より一般演題の募集を開始いたします。今月号では演題申し込み方法についてお知らせいたします。

1. 演題申し込み資格

- 1) 発表者は今年度の技師会費を納入した方(以下、会員)に限ります。
- 2) 共同発表者は原則として7名以内とします。
- 3) 非会員の共同発表者がいる場合は学会事務局にご連絡ください。

※なお、学生の発表については上記資格を問いません。

2. 演題・抄録の申し込み方法

1) 会員の方

- ・日本臨床衛生検査技師会(JAMT)会員専用ページよりログインし、演題・抄録登録を行なってください。

※第52回埼玉県医学検査学会ホームページからJAMTにリンクできます。

※ログイン時に会員番号とパスワードを使用します。

- ・一般演題の抄録は、抄録テンプレートを用いて作成し、抄録ファイルをアップロードしてください。

※抄録テンプレートは、学会ホームページからもダウンロードできます。

- ・一般演題、学生演題の本文は26文字×18行×2段=936文字以内です。

- ・句読点はカンマ「,」、ピリオド「.」を使用してください。

- ・演題・抄録登録(変更)時にJAMTより「受領メール」が自動送信されます。

受領メールが届かない場合はメールアドレス、登録手順をご確認ください。

数日経過しても届かない場合は、お早めに学会事務局へお問い合わせください。

2) 学生の方、賛助会員の方(コマーシャル演題)

- ・演題申込書、抄録テンプレートを第52回埼玉県医学検査学会ホームページからダウンロードし、必要事項を記入および作成した抄録ファイルを学会事務局へ電子メールで送付してください。

- ・「受領メール」は演題・抄録受付後に学会事務局から後日返信いたします。

3. 演題・抄録

受 付 開 始 日 : 令和6年5月1日(水)

演題・抄録締切日：令和6年7月15日（月）

※演題・抄録の締め切り日の延長は、原則として行いません。

4. 発表形式

パソコンを使用したスライド投影の口演形式で行います。

5. 申し込み演題の採否

- 1) 採否については実行委員会に一任願います。
- 2) 採否の結果については、後日電子メールにて通知いたします。

6. 問い合わせ先

第52回 埼玉県医学検査学会 実行委員会事務局

事務局長 石井 圭一

医療法人社団武蔵野会 TMGあさか医療センター 臨床検査部

〒351-0023 埼玉県朝霞市溝沼1340-1 E-mail : k_ishii@tmg.or.jp

「初めての学会発表」

第52回埼玉県医学検査学会

学術部 佐久間 信之

第52回埼玉県医学検査学会の学術部を務めさせていただきます、さいたま赤十字病院の佐久間と申します。私の過去の学会発表での経験とその効果についてお話させていただき、皆様の発表の一助となれば幸いです。

【はじめに】 今回の学会テーマは「Challenge!」です。現代社会において、この概念は非常に重要性を増していると感じます。変化の速い現代社会では、常に新しいことに挑戦し、自分自身を成長させていくことが不可欠です。

【私の学会発表経験】 私は埼玉県臨床検査学会で、精度管理試料のQAPトロールの安定性について発表しました。当時、納得いくまでデータ収集を行い、発表に臨みました。しかし、検討項目やデータが多すぎたため、資料が膨大になり、聴衆が理解できる範囲を超えてしまいました。結果として、自己満足の発表に終わってしまった経験があります。この経験から、要約して分かりやすく相手に伝えることの重要性を学びました。この学びは、今でも職場スタッフや他科メディカルとのコミュニケーションにおいても活かされています。実際の発表では、次演者席で発表原稿を手にしながら、自分の名前が呼ばれるのをドキドキしながら待っていました。壇上で話し始めると、練習よりも早口になってしまいました。結語のスライドまでたどり着いたものの、想定していない質問に立ち往生。共同演者の先輩の助け舟でなんとか終了しました。発表の後に質問をいただき、意見交換できたことは今でも覚えています。

【学会発表のメリット】 このような経験を積むと、自分の発表だけでなく、他の発表に関しても興味が湧き、スライド構成、スピード、要点、結語等にも目を向けるようになっていくと思います。発表に対する質問も緊張せずにできるようになるのではないのでしょうか。

学会発表は、プレゼンテーションや質疑応答のスキルを磨く絶好の機会です。発表を経験することで、人前で話すことに自信が付き、コミュニケーション能力も向上します。

【学会発表に参加してみませんか？】 学会発表は、人によって感じ方や得られるものは異なるかもしれませんが、達成感、反省、学び、感謝、新しい目標、モチベーションアップなど、何かを得られることは間違いありません。この機会にぜひ皆さんも学会発表に「Challenge!」してみてください。はいかがでしょう？普段味わえない爽快感が待っているかと思います。

埼臨技ニューリーダー育成研修会報告

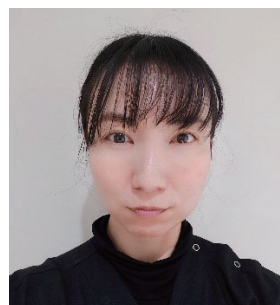
テーマ：臨床検査技師の進むべき未来と次世代のリーダーに求めるもの

令和6年2月10日(土)ソニックシティにて、埼臨技ニューリーダー育成研修会が「検査室の人材育成」をテーマに開催された。講演1として神戸孝裕氏(関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所)より「臨床検査技師の進むべき未来と次世代のリーダーに求められるもの」について講演があった。講演2としてグループワーキングを実施した。それぞれ活発な意見交換が行われ「自分のスキルを活かしたキャリア形成」「臨床へ新たな領域への参入」についてまとめ、それぞれ発表し共有した。以下、参加者からの感想を掲載する。



埼玉医科大学国際医療センター
大谷 真弓

2月に開催された「埼臨技ニューリーダー育成研修会」に参加しました。「臨床検査技師の進むべき未来と次世代のリーダーに求めるもの」について講演の後、Management by Target Setting(以下MTS)ステップ表を作成するグループワーキングが行われました。講演では自己啓発や学び、そしてキャリアチェンジまで幅広い内容でした。また人材育成につながる意識改革として実施した自己分析および他己分析は、今後のコミュニケーションや職場の雰囲気づくりに役立つ経験となりました。



グループワーキングでは、「セカンドキャリア」について各々がMTSステップ表を作成し、それを基にグループでのステップ表を作成し発表する内容でした。初めは緊張しましたが、発言しやすい和やかな雰囲気のなか、年代や勤務環境による視点の違い、さまざまな意見や未来像を聞けるとても貴重な機会でした。

今回の研修会での経験を活かし、次世代のリーダーとして活躍できる人材になれるよう努めていきたいです。

埼玉県済生会加須病院
山田 貴士

2月10日(土)埼臨技リーダー研修会に参加しました。まず神戸氏から臨床検査技師の進むべき未来と次世代のリーダーに求めるものという講義を受け、その後に2つのグループに分かれ、グループ内で出た内容を基に目標を掲げMTSステップ表を作成し発表するというグループワーキングを行いました。

講義では高齢化社会の現状やセカンドキャリアについての話を聞き、今現在、自分自身も淡々と仕事をしていましたが、年を重ねていくごとに仕事の



仕方や考え方が変わっていくことに気づくことができました。また、各年代のマインドの活かし方を考え、これから先に続く仕事をいかに楽しく続けていけるかを考えるきっかけになったと思います。

グループワーキングでは「臨床検査技師の救急医療への参画」をテーマに自分のグループは話し合い、目標に向けてのステップや留意点を確認していきました。最初に目標を掲げ、目標を達成するにあたり期間やステップを書くことでこれからの行動が明確になることが理解できました。これはメジャーリーグで活躍する大谷翔平選手の「マンダラシート」に考え方が似ていると感じ、これから色々なことにチャレンジしていきたいという意欲が湧いてきました。このMTSステップ表を自施設にも紹介し、運用できたらと思います。



検査室管理運営委員会 研修会報告

テーマ 臨床検査室の人材育成 ～ Z世代 入社3年目までの若手育成 ～

令和6年2月27日(火)19時より「臨床検査室の人材育成」をテーマに開催された。講師にH.U.フロンティア株式会社の渋谷学氏をお招きし「Z世代 入社3年目までの若手育成」について講演があった。以下、参加者からの感想を掲載する。

深谷赤十字病院
平田 優季

臨床検査室の人材育成についてWeb研修会に参加しました。講師の渋谷氏は、Z世代は厳しい意見を言う上司ではなく、相手の意見に耳を傾けて気を配ってくれる上司を望んでいること、わからないことがあったら相談に乗ってくれて一緒に業務を遂行できる職場で働きたいと思っていると発言しており、私も共感するところでありました。これらの点よりZ世代は、お互いに尊重しあいながら協力して仕事のできる環境が整っているかどうかを、就職先を選択する際の第一条件として捉えているとのことでした。



また、仕事のパフォーマンスを培うには意欲とスキルが必要で、スキルを習得し向上させるためには疑問点をその都度上司や先輩に相談し指摘を受けるといった経験学習が重要であるということでした。このことから私は、パフォーマンスの高い集団を築くためには、臨床検査に関するスキルのほかに、職員同士のコミュニケーションが円滑にとれる職場環境を整えるための対人スキルも身につけなくてはならないということを感じました。私は入社1年目ですが、4月には後輩が入ってくるので、日頃から気にかけてこちらから声をかけることで、後輩にとって話しかけやすい環境づくりに貢献したいです。

社会医療法人財団 埼玉石心会病院

安田 卓矢

臨床検査室の人材育成『Z世代 入社3年目までの若手育成』がテーマでZ世代の仕事に対する考え方や育成の考え方などを中心にした研修会であった。

Z世代に行った調査結果では仕事に対して『周囲との良好な関係を築き、いきいきと働き続けられること』を大切にしている人が多く、職場に対しても『お互い助け合う』職場で働きたいという結果であった。上司に期待することでも『相手の意見や考え方に耳を傾けること』『人間関係に気を配ること』であることがわかった。

育成においてはOJT:70%、他者からのフィードバック:20%、自己啓発:10%であり、OJTの重要性を改めて理解した。ただし、スタッフの育成において大事なのは育成者の力であり、育成者のレベルによって若手のレベルも左右される。当院でも「育成者の育成が必要」と以前から意識しており、今回の研修で再認識できた。

若手と育成者の関係性、若手の自分ができるという自信、自律性を満たすことをしていき、生産性の向上をすることと管理者として若手だけでなく、スタッフの意見を傾聴することをしていきたい。また、スタッフに研修で学んだ内容を共有していきたい。



青年部委員会 研修会報告

当直なんか怖くない!!

～こんなことあったらあなたならどうする?～

令和6年3月1日(金)19時より青年部委員会研修会が開催された。西川文乃氏(深谷赤十字病院)より「当直中の緊急輸血対応 ～これで緊急輸血も怖くない!!～」、山本由貴子氏(防衛医科大学病院)より「その結果、本当に正しいですか?～病態だけではない検体検査データのみかた～」、峯岸将臣氏(新座志木中央総合病院)より「生理機能担当者だからこそ体験できた経験 ～担当外でもやるっきゃない～」の講演があった。以下、参加者からの感想を掲載する。

埼玉県済生会川口総合病院

宮澤 実侑紀

今回2023年度青年部研修会「当直なんか怖くない!! ～こんなことあったらあなたならどうする?～」に参加しました。私は当直業務を始めて約半年が経ちますが、特にルーチンでは行っていない分野や緊急性の高い業務はまだまだ不安です。今回の研修会は症例とともにどのような行動をとることが正解なのか、クイズ形式の講義でした。

輸血のオモテウラ不一致や、交差適合試験の不適合はできれば遭遇したくないと思いがちです。自分にできることの選択肢を覚えておくことによっ



て、急がなくてはならないときでも落ち着いて対応することができると思いました。また、検体検査の講義では、特に凝固について非常に参考になりました。闇雲に再検するのではなく、検体を見つめる、または再提出依頼をするなどの行動でより早く、正しいデータを臨床に返すことができると感じました。

講義に出てきた症例は、全ていつ自分が遭遇してもおかしくないものばかりでした。次回からの当直に活かしたいです。有益な研修会に参加させていただきありがとうございました。

さいたま赤十字病院

武井 珠里

今回、初めて「2023年度青年部研修会 当直なんか怖くない!! ～こんなことあったらあなたならどうする?～」に参加しました。私自身、当直を始めてから半年ということもあり、今回の講習で大変多くのことを学ぶことができました。特に輸血検査は半年たった今でも不安であり、血液型不適合などのエラーが起きた際の対応方法を実際の症例を通して学べたのは大変参考になりました。また他にも、凝固検査の異常値や心電図の見方など新しい知識を得ることができました。



研修会を通して、緊急事態やエラーが起きても落ち着いて対応することが大切だと改めて気づくことができました。今回学んだことを活かして、トラブルが起きても落ち着いて業務にあたり、適切な対応を行えるようになりたいです。今後、積極的に勉強会や研修会に参加し、胸を張って当直なんか怖くない!と言えるようになりたいと思います。ありがとうございました。



研究班研修会報告

テーマ **関節超音波検査を覚えよう!** ～ 基本的な描出と症例 ～

主催 生理検査研究班

実施日時: 2024年1月23日 18時30分～19時30分

会場: Web開催 教科・点数: 専門教科-20点

講師: 関根 由加利 (上尾中央医科グループ 彩の国東大宮メディカルセンター)

参加人数: 会員144名

出席した研究班班員: 新井雅人 小宮山英幸 南雲涼太

研修内容の概要・感想など

生理検査研究班では、関節超音波検査をテーマにとりあげた。講演では各関節における滑膜組織(関節滑膜、腱鞘滑膜、滑液包)の解剖学的位置を知ることが重要であることから、解剖学から始まりリウマチの病変や臨床症状と超音波検査の評価で重要なスコアリングについて説明があった。実際に正常な関節超音波画像を示しながら関根氏から詳細な解説があり、症例の提示があった。

関節リウマチにおける関節超音波検査施行の重要性としては、リアルタイムに観察ができる

という特性より、関節滑膜炎の有無やパワードプラ法で新生血管を血流シグナルとして捉え、炎症の程度を評価することができ(骨や軟骨を溶かしていくような強い炎症の程度をみることで)、レントゲンではわからない骨表面の微細な変化、治療効果判定の判断にある。関根氏からは、関節超音波検査の役割として早期診断と治療に寄与できるというメッセージがあった。

症例は、関節リウマチが4例、ベーカー嚢胞が1例、リウマチ性多発筋痛症が1例、痛風が1例、偽痛風が1例であった。関根氏からは、日常検査で遭遇する症例であり、それぞれの観察するポイントや臨床症状の解釈について丁寧な説明があり勉強になった。

関節超音波検査は、施設の特性によって件数や経験にばらつきが多い傾向にある。また、腹部超音波や心臓超音波などの主要な検査と比較し、研修会も少なく外部から知識を吸収する機会も少ないと思われる。今回の研修会は144名と多くの方の参加があった。講演後には活発な質疑応答も行われ、参加者の関節超音波検査について学ぼうとする意識の高さがうかがえ、興味を持つ技師も多いと感じた。研修会参加を機に学んだことを日々の関節超音波検査業務に役立てていただければと思う。

(文責：小宮山英幸)

テーマ **病理検査におけるインシデント** ～ 事故を未然に防ぐために ～

主催 病理検査研究班

実施日時：2024年2月2日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティセンター 第15集会室 教科・点数：基礎教科ー20点

講 演 1：「インシデント」とは？ その基礎と分析・運用

講 師 1：小澤 英樹 (株式会社ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター)

講 演 2：インシデント対策と実例 ～獨協医科大学埼玉医療センター編～

講 師 2：岡村 卓哉 (獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科)

講 演 3：インシデント対策と実例 ～株式会社アムル編～

講 師 3：渡邊 俊宏 (株式会社アムル 上尾中央臨床検査所)

参加人数：会員54名 非会員2名

出席した研究班班員：森田繁 高橋俊介 小島朋子 今村尚貴 遠山人成 松本祐弥 三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回は、病理検査におけるインシデントをテーマに開催した。

小澤氏は、インシデントの基礎と分析・運用について解説した。「1件の重大事故の背後には29件の軽微な事故があり、その背景には300件のインシデントが潜んでいる」というハインリッヒの法則を挙げ、インシデントを収集・分析することが重大事故の回避につながると説明した。また、インシデント報告数が上がらない現状に対し、報告を増やす工夫についても提示した。

岡村氏は、インシデント対策と実例について病院検査室の立場から解説した。システム化によるヒューマンエラーの回避や切り出し順についてコンタミネーションが起りにくいものを先に行い、細かくバラバラになりやすいものを後に行うといった具体例を挙げて説明した。

渡邊氏は、インシデント対策と実例について臨床検査所の立場から解説した。インシデントレポート用の書式を作業工程に分けた形式で記載することにより、発生場所や発見場所で分析することができ、対策に繋げやすくなるとのことであった。また、人間は「選ぶ」行為をしないと間違えが起りやすくなるものであるため、業務を行なっていく上で「選ばない」仕組みを

考えるとよいとのことであった。例えば「ラベルを貼る作業をしなくてもよい環境をつくる」「一対一の環境をつくる」等である。

医療安全に関する講演は幾度となく聞いているが、今回は病理検査に直結した具体例や、他とは異なる切り口での解説を聞くことができ、安全対策について新たな意識付けができたと思われた。
(文責：三鍋慎也)

テーマ **Let's供覧!! ～ どう報告する？伝えようか？この標本 泌尿器編 ～**

主催 細胞検査研究班

実施日時：2024年2月8日 18時00分～19時30分

会場：Web開催 教科・点数：基礎教科－20点

講演 1：尿細胞診の今までと、パリシステムの基礎

講師 1：金守 彰（埼玉県済生会川口総合病院）

講演 2：アンケート調査と症例解説 ～パリシステム核所見を中心に～

講師 2：並木 幸子（獨協医科大学埼玉医療センター）

参加人数：会員89名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 加藤智美 稲山拓司 野本伊織
小川弘美 猪山和美

研修内容の概要・感想など

Let's供覧!!と題されたこの研修会は、10年以上にわたって企画されており、昨年からは趣向を変えて、一つのテーマをもって開催している。今回は臨床泌尿器や本邦の細胞学会などでも話題となっているThe Paris System（以下TPS）を中心とした内容であった。本研修会は事前に病理細胞診を行っている県内各施設にCDを配布し、アンケートと泌尿器細胞診5症例の提示を行い、クエンスタントを用いて回答していただいた。

講演1では、金守氏から泌尿器細胞診判定のこれまでの変遷とTPSの基本について解説が行われた。基本的な細胞診所見の取り方から、パパニコロウ分類や泌尿器細胞診報告様式2015との相違点について講演された。特に、TPSは高異型度尿路上皮癌を見落とさないための報告様式であることを念頭におくことが重要であり、これらの留意点などが簡潔に示された。

講演2では、並木氏からアンケート調査と各症例の解説が行われた。細胞診経験年数ごとの解析から詳細な分析結果が示され、回答にばらつきがみられた症例においては、核クロマチン所見などの観察者間差が判定結果に及ぼす影響がみられた。

総じて基礎的な講演から実践まで、TPSに関する総論的な理解が深まった研修会であった。TPSを導入するには既存報告様式とのすり合わせと泌尿器科医との連携が重要であり、慎重に協議する必要があると考えられた。また、今回のアンケートは県内における泌尿器細胞診報告の現状についても知る機会となった。
(文責：猪山和美)

テーマ **血液製剤についてのトピックス**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2024年2月9日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 演：特殊製剤使用状況、HEV感染情報、血小板製剤の細菌感染症等について

講 師：松田 充俊（埼玉県赤十字血液センター）

参加人数：会員54名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 比嘉絢子 岩崎篤史
川内沙織 廣田渉

研修内容の概要・感想など

今回は「血液製剤についてのトピックス」をテーマに、埼玉県内での二次製剤の供給状況や輸血後感染症の詳細から遡及調査に関する内容で講演が行われた。

二次製剤とは洗浄赤血球液、合成血液、解凍赤血球液、洗浄血小板などの製剤が該当する。それぞれの製剤の適応と製造方法について説明があった。埼玉県内では、洗浄赤血球液と洗浄血小板は毎年一定数製造・供給されているのに対して、合成血液と解凍赤血球液は10年間で20～30件ほどであり極めて少ない供給数であった。

輸血後感染症については2020年8月からスクリーニング検査が開始され遡及調査の対象に追加されたE型肝炎ウイルス（Hepatitis E Virus、以後HEV）に関する内容と血小板製剤による細菌感染事例について説明があった。HEVの主な感染経路は経口であり、ブタ、イノシシ、シカなどの肉を十分に加熱しないまま摂取することにより感染する。2002年に輸血によるHEV感染が初めて確認された。そして、スクリーニング検査導入後1年間に全国で0.055%の陽性が確認されている。血液を介した感染事例が認められ、スクリーニング検査が全国導入されたことにより、遡及調査の対象病原体として扱われることとなった。そして、その遡及調査についてはどのような流れで調査が行われているのか詳細な説明があった。実際に遡及調査の対応をする機会はなかなかないため貴重な内容であった。

細菌感染については報告事例の紹介と献血時の初流血除去といった安全対策の説明があった。血小板製剤については保管温度が20℃～24℃であるため他の輸血用血液製剤と比較して細菌が増殖しやすい環境にあるため特に注意が必要である。輸血後細菌感染の防止には各医療機関での安全対策も必要不可欠である。輸血前には製剤の外観を確認し、異常がないことを確認し、輸血中には患者状態の観察を行う。また、有害事象が起きた場合に備えて使用済みバッグの保管や輸血前患者検体の保存も必要となる。

今回の研修会では、血液製剤の製造・供給の状況を知るとともに、輸血後感染症に対する安全対策に関して改めて学ぶことができた。参加者には研修会の内容を踏まえて、血液製剤の適正使用と安全な輸血療法を実践していただきたい。
(文責：廣田渉)

テーマ **もう困らない！ 臨床側へわかりやすく伝えるために！** **輸血検査報告書作成方法について**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2024年2月15日 19時00分～20時15分

会 場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：血液型検査

講 師 1：川内 沙織（防衛医科大学校病院）

講 演 2：不規則抗体検査

講師 2：岩崎 篤史（自治医科大学附属さいたま医療センター）

参加人数：会員23名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 岩崎篤史 廣田渉
川内沙織 比嘉絢子

研修内容の概要・感想など

輸血検査では血液型に異常反応を認めた場合や不規則抗体が検出された場合、製剤準備に影響を及ぼすことがある。これらの結果を報告書として臨床へ提出することで情報を共有し、今後の対応、さらには安全な輸血へと活かすことができる。しかし実際にどのような形式で報告するか、どこまで詳細に記載するかなど、施設によっても対応は様々であるのが現状である。本研修会は、臨床への報告が必要と思われる症例を提示しながら、研究班で考案した報告書の形式と記載すべき内容を共有する目的で開催した。

川内氏の講演ではオモテ・ウラ不一致の3症例を用いて、報告書作成の意義や書き方のポイントについて説明があった。「何のために報告書を提出するのか」を理解した上で、①正確な結果 ②結論に至った必要な情報 ③過不足のない捕捉説明 ④明確な結論 を記載することが重要とのことであった。

岩崎氏の講演では不規則抗体スクリーニング陽性の4症例を用いて、報告書への記載内容や各症例への対応方法について説明があった。報告書に記載する必要な情報とは、①臨床的意義のある抗体であること ②抗原陰性血を選択する必要があること ③抗原陰性血の適合率 ④今後の対応 とのことであった。

両者に共通していることは、検査結果から得られた情報が適切かつ正確に伝わるよう、わかりやすい報告書作成を目指す必要があるということだ。参加者の方々には本研修会の内容を報告書作成の一助にしていきたい。

（文責：比嘉絢子）

テーマ **AMR対策アクションプラン2023と抗菌薬適正使用に貢献するDS**

主催 微生物検査研究班

実施日時：2024年2月22日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：専門教科－20点

講師：横山 僚（シスメックス株式会社）

参加人数：会員25名 賛助会員7名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 岸井こずゑ 今井英美 伊波嵩之 大塚聖也

研修内容の概要・感想など

2023年度最後の研修会は「AMR対策アクションプラン2023と抗菌薬適正使用に貢献するDS」というテーマにて開催した。

はじめに国内でのAMR対策アクションプランの概要や策定後の動向、成果指標について解説があった。AMR「薬剤耐性：Antimicrobial Resistance」とは抗菌薬不適切使用による薬剤耐性菌の増加、新しい抗菌薬の開発の減少などを背景に国際社会でも重要な課題として取り上げられている。2015年にWHOにて薬剤耐性に関する国際行動計画が採択され、日本では2016年にAMR対策アクションプランが決定されている。

その中の一つである2016年－2020年の成果指標について抗菌薬の使用量が減少傾向にあるが、コロナ禍の影響が考えられ今後の動向が重要となるとの見解が示された。

続いてAMR対策アクションプランの各分野における取り組みや現状について解説があった。

目標1については一般の方々も薬剤耐性について知ることが重要であり、現在はSNSやメディア、キャラクターとのコラボレーションなどで情報発信に取り組んでいると報告された。私たちも正しい情報を周知する活動に積極的に関わっていくことが重要であると考えられる。

目標2ではアンチバイオグラムの活用について追記があったと報告された。アンチバイオグラムとは施設内で分離された細菌の薬剤感受性率を表形式した図であり、経験的治療の抗菌薬選択や感染対策で活用されている。施設内の結果を基に作成されるため、日々の正確な検査の実施が重要である。

目標4は抗微生物薬適正使用の手引きとSelective Reportingについての解説であった。Selective Reportingとは報告する薬剤感受性結果を選択することで、適切な抗菌薬の使用を促す手法の一つである。Selective Reportingに関する記述や報告もあるため、今後の情報収集や検討が大切であると考えられる。

目標5は抗菌薬適正使用の指標であるAWaRe分類と現状についての解説であった。AWaRe分類は抗菌薬を、第1・第2選択薬の抗菌薬（Access）、制限すべき抗菌薬（Watch）、最終手段として使用する抗菌薬（Reserve）の3つのグループに分けたものであり、Accessに分類される抗菌薬の使用割合を上げることが重要である。日本国内のAccess使用割合は増加しているが他国と比較すると低い使用割合となっているため、2023年－2027年の成果指標でもWatchに分類される抗菌薬の使用量減少が目標とされていると解説があった。

最後に診療報酬改定についての解説があった。感染防止対策加算の改定や診療所の感染対策参画を推進するための評価設立から、令和6年度の改定案である介護保険施設等の協力体制の新設、外来感染対策向上加算やサーベイランス強化加算の見直し等について報告された。

AMRの問題は避けて通ることのできない課題であり、ICTやASTなどで院内の感染対策に携わる技師も多くいると思われる。また感染対策向上加算に検査技師が含まれる基準もあるためAMRや感染対策のみならず病院の大切な収入源にも関わっている。今回の研修会が参加した方のAMRや感染対策に関する知識取得、業務や院内活動に関する貢献への一助となれば幸いである。

（文責：伊波嵩之）

**令和5年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第12回 理事会議事録**

日時：令和6年3月14日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 松尾 佐瀬 網野
三木 塚原 神嶋 伊藤(恵)
伊藤(隆) 石井 神戸 小林
久保田 長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 阿部 長岡

(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和6年2月8日～令和6年3月13日)

2月8日(木) 令和5年度第11回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、塚原、神嶋、伊藤(恵)、
伊藤(隆)、長岡、久保田、長谷川、
神戸、石井、小林、遠藤

2月10日(土) 日臨技執行理事会：神山

2月10日(土) 日臨技予算委員会：神山

2月10日(土) 埼臨技リーダー研修会：

神戸、塚原、佐瀬

2月15日(木) 埼玉県医師会精度管理調査講評会
準備会議：神山、山口、松岡、神戸

2月15日(木) 第52回埼玉県医学検査学会実行委
員会：三木、佐瀬

2月16日(金) 学術部・会計部合同会議：
松岡、長岡、神戸、石井、長谷川、
小林

2月18日(日) タスクシフト指定講習会
(埼玉県 022)：

猪浦、松寄、濱本、伊藤(恵)、
長岡、佐瀬、網野、三木

2月18日(日) 日臨技精度管理部会：神山

2月19日(月) 青年部研修会予演会：濱本、塚原

2月20日(火) 第9回日臨技災害対策本部会議：
神山

2月24日(土) 埼臨技創立70周年記念式典・祝賀会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、神嶋、
伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、
久保田、長谷川、神戸、石井、
小林、遠藤、細谷

2月27日(火) 検査室管理運営委員会研修会：
塚原、伊藤(隆)

3月1日(金) 青年部研修会：濱本、神戸、塚原

3月4日(月) 第10回日臨技災害対策本部会議：
神山

3月5日(火) 役員候補者推薦委員会会議：
山口、濱本

3月7日(木) 日臨技施設認証審査打ち合わせ会
議(臨床化学・免疫血清)：神山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 2月24日(土) 埼臨技創立70周年記念式典・
祝賀会を開催した。

2) 3月1日(金) 日臨技へ令和6・7年度日臨
技理事候補者推薦を提出した。

3) 3月5日(火) 役員候補者推薦委員会会議を
行った。(別紙資料1)

2 総務部

1) 2月18日(日) タスクシフト指定講習会(埼
玉県 022)を開催した。(別紙資料2)

- 2) 3月15日(金)だより第538号発行予定。
- 3) 3月17日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県 023)を開催予定。運営責任者は佐瀬理事。
- 3 事業部**
- 1) 2月10日(土)埼臨技リーダー研修会を開催した。(別紙資料3)
- 2) 2月19日(月)青年部研修会予演会を開催した。(別紙資料4)
- 3) 2月27日(火)検査室管理運営委員会研修会を開催した。(別紙資料5)
- 4) 3月1日(金)青年部研修会を開催した。(別紙資料6)
- 4 学術部**
- 1) 2月28日(水)「4月・5月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。
- 2) 第2・3回編集委員会(メール会議)を開催した。(別紙資料7)
- 3) 埼臨技会誌Vol70. No.3 3月末に発行予定。
- 5 精度保証部**
特になし
- 6 会計部**
- 1) 令和5年度正会員費2名10,000円、入会金2名2,000円、合計12,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金130,500円の入金があった。
- 3) 石井印刷に埼臨技だより537号Web版12P 59,400円を支払った。
- 4) 2月16日(金)学術部・会計部合同会議を開催した。(別紙資料8)
- 7 精度管理委員会**
- 1) 2月15日(木)埼玉県医師会精度管理調査講評会準備会議を行った。(別紙資料9)
- 2) 3月28日(木)令和5年度埼玉県医師会精度管理調査講評会開催予定。
- 3) 令和5年度埼玉県医師会精度管理調査に関連する諸会議が終了した。
- 8 一都八県会長会議**
特になし
- 9 日臨技関甲信支部**
特になし
- 10 日臨技**
特になし
- 11 第52回埼玉県医学検査学会**
- 1) 2月15日(木)第5回実行委員会が開催された。(別紙資料10)
- Ⅲ. 承認事項**
- 1 事務局**
- 1) 会員動向(令和5年度分)
令和6年3月1日現在
会員数 3,581名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 301名)
賛助会員 71社[令和4年度 71社]
承認された。
- 1) 令和6・7年度委員会委員について
(当日資料)
上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、各部署長は所管の委員会の委員をとりまとめ、月内にメール審議にて委員の承認を行うこととした。
- 2 総務部**
特になし
- 3 事業部**
特になし
- 4 学術部**
- 1) 一般検査研究班の令和6・7年度研究班班員案の変更(役務部分)について
(別紙資料11)
上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 2) 優秀論文賞の推薦について
上記の件について、久保田亮編集委員長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 5 精度保証部**
特になし
- 6 会計部**
特になし
- 7 精度管理委員会**
特になし

8 第52回埼玉県医学検査学会
特になし

2 総務部
特になし

IV. 議題

1 事務局

1) 総会議案書添付資料のWeb掲載化について
(別紙資料12)

上記の件について、松寄朋子次長より発言があり、審議の結果、総会議案書の添付資料は簡素化し、従来の添付資料として掲載していたものは埼臨技会誌に掲載することが全会一致で可決した。

3 事業部
特になし

4 学術部
特になし

5 精度保証部
特になし

6 会計部
特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

予測のつかない医療業界

今年も多くの施設で新入職員を迎えたことと思います。

新入職員の皆さま、入職おめでとうございます！

埼玉県臨床検査技師会への入会をお待ちしております。

さて、少し不安なタイトルですが、近年言われているのが、社会変化が加速すると言われている第4次産業革命です。第1次産業革命は軽工業、第2次は重化学工業、第3次は情報技術、第4次がAI革命と言われています。最近AI化がどれだけ臨床検査技師の仕事に肩代わりするのかという議論になりますが、でも恐れてばかりではありません。AIが学習するデータは私たちが蓄積した過去データです。現在の知識の延長上でしか、未来を予測することができません。予測不可能な未来に立ち向かえるのはAIではなく、日々コツコツと仕事をこなしている臨床検査技師です。誰が新型コロナのパンデミックがくると予想したでしょうか？ 誰がロシアのウクライナ侵攻を予測したでしょうか？ AIが変数化できない要因が、つねにわたしたちには待ち受けています。

職場のためにあなたがいるのではありません。あなたのために職場はあります。

お互い楽しく充実感をもって働いていきましょう。

(松岡 記)

